

# 法遍寺 から大切な 皆様へ

2019年10月1日

日蓮正宗 年間方針

勇躍前進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成

勇猛果敢の折伏

年間実践テーマ

① 勤行・唱題で折伏推進

誓願達成

罪障消滅

② 講中一結で御講参詣

異体同心の団結

折伏成就

③ 登山参詣で育成推進

心身浄化

功德无量

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2019年9月8日の御報恩御講の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日顕上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

## ① 講中のみなさまへ

日蓮大聖人の御書に「信心の水すまば、利生の月必ず応(おう)を垂(た)れ守護し給ふべし」(464頁)とあります。「利生」とは「利益」のことで、「応」とは仏様の慈悲が具体性をもって現れることをいいます。天月がいかに光を出しても、水が濁っていれば影は宿されません。同じく仏様の慈悲も、それを受け止める側に相應の機縁の器がなければ、慈悲の注ぎどころがなく、施しようがありません。水を清く澄ませるためには、仏様の教えを享受し、自らの信力を強盛かつ清らかにしなければなりません。濁った水とは、不信・浅識をさします。「自分としてはこれくらいいいか」とか「自分が思うに仏教とはこういうものだ」というのも、そもそも妙法への不信・浅識からなるものです。自身の過去・現在の謗法罪障と向き合い、折伏をなして自分と他人一緒に成仏を目指しましょう。

## ② 創価学会に籍を置くみなさまへ

日蓮正宗は昔も今も何ら変わることなく、宗祖日蓮大聖人・日興上人以来の血脈に具わる御法体に随順し、広宣流布をめざす宗団です。これを知るには、学会がなす一連の報道から目を離し、日蓮正宗のありのままの姿を知ることが必須です。かつて創価学会が発行した「折伏教典」には、「お題目を唱える宗教にはたくさんの宗派があって、(中略)そのなかでただ一つ正しく日蓮大聖人の教えどおりに信心修行しているのは、日蓮正宗(総本山富士大石寺)だけである」(96頁)「爾来法燈連綿、一糸乱れず清浄に伝承されてきている唯一無二の宗教こそ日蓮正宗富士大石寺である」(100頁)と説明されています。妙法への信仰は、弘安二年の大御本尊と血脈相伝の内証に帰依することです。真実を知るために、ここ法遍寺においでください。

## ③ 日蓮正宗を知らない方へ

日蓮正宗は日蓮大聖人の教えのままに、世にある法の正邪を峻別する折伏の宗旨です。そしてその仏道を歩むことにより、個々の人間に活力を与え、現実生活の向上を説くものです。つまり大聖人の説く仏法は、目先のものではなく、生命の根本から治癒せしめるものなのです。私たちには過去世からの種々の宿業があり、花も時がこなければ咲かないように、信仰の功德が開花する時期も人によって異なります。また目先の願望に執られることなく、いかなる時でも、生命力を発揮して人生を悠々と歩む人間になっていくところに、正法の真実の利益があります。この信仰によって御本尊の功德を実感し、体験した人々の喜びと確信が、多くの人々を正法に導き、真実の幸福への人生を歩ませています。ここ法遍寺を訪ねてください。お待ちしております。